福祉文教常任委員会　視察報告書　　令和8年8月5日（水）～8月7日（金）　山形県

福祉文教常任委員会　　小出嶋　文雄

1　高畠町議会
「オーガニック給食・オーガニック宣言について」
町がオーガニックビレッジ宣言
児童生徒の給食に有機農産物活用 年間3日のみ
有機米、有機野菜の栽培が大変であり、特に除草が苦労がある
栽培農家は出荷が主で学校給食に回らない
農家が高齢化により栽培面積減少、雑草対策大きな負担、消費が限定的

◯ 給食に利用は、消費量、農作業の負担、流通方法の改善が課題であり、箕輪町が導入するかは限定的に活用ではないかと感じた。

2　鶴岡市　社会福祉法人月山福祉会
「農福連携・就労相談窓口の取り組みについて」
就労支援施設が、就労困難者を農業に導く⇒農福連携事業を立ち上げた
肉牛飼育⇒草だけの飼料
大学教授、食肉会社と繋がりを持って展開できている

◯人のつながりと引っ張っていく人の力が大切

鶴岡市は「ひきこもり支援ハンドブック」２０２５年改定
自己肯定感の充実、ひきこもり支援は家族へのアプローチから支援
広域的(５市町村)に取り組んでいる

3　鶴岡市　バーンフュージョンソライ
「農福連携と教育事業について」
経営 株式会社SHOUNAI
アソビバ 高さ４５Mのバンク遊具、巨大ネットジャングルなど完全オリジナル遊具
ツクルバ １０００種類の素材と２００種類の道具を用意 自分たちであらゆるものづくりができる
ライブラリ 大人も子どもも８００冊の本が設置
活字離れの子どもたちに１回でも本を手に取ってもらいたい
企業と連携
ＳＯＲＡＩ放課後児童クラブ １２８名が登録 鶴岡市内１０校が登録
自分たちで作る学童(自治)を目指す
SORAI SCHOOL フリースクール 登録児童数 １７名(４,５年生が多い)小中学校の出席認定あり
学びをツクル、社会をツクル、居場所をツクルが基本方針
「自分もみんなも大切」を合言葉にしている
庄内子ども居場所ネットワークを形成している
子どもたちが自由に作り、遊び、学び、居場所がある大規模な施設である。補助金、企業の支援で成り立っている
運営に市などが支援をできないと経営的に難しいのでは

4　酒田市議会
「不登校支援メタバース空間構築などの取り組み」
酒田市の支援体制
校内
・校内教育支援センター
・スクールカウンセラー(７名)
・教育相談員(中学かくこう１名)
校外
・教育相談室「あのん」(相談員４名)

・教育支援センター「ふれあい教室」(相談員２名)
・家庭訪問相談員(３名)
・スクールソーシャルワーカー(３名)
・悩み相談SOS
・教育支援メタバース
不登校支援メタバース
支援はしてきたが不登校は減っていない。家庭で教育支援センターへの送迎が困難。
支援につながっていない児童生徒の対応が課題
メタバース空間を提供し、新たな人間関係構築、個々の状況に対応した直接支援につなげる
毎週２日 登録者５名(７年度)
課題 利用者が少ない 居場所としてどう価値付けるか、学びのきっかけをどうつ くるか

◯利用をどう広げるかが課題と感じた。